

矢作川流域圏懇談会通信

R6 流域連携 vol. 1



発行日：令和6年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆流域圏担い手づくり事例集交流会 2024 を開催しました！

矢作川流域では、上流域や下流域の自治体で過疎化と少子高齢化が進んでいます。その解決の糸口として、矢作川流域圏懇談会では、山部会を中心に2013年度から矢作川流域で主として中山間地振興に携わる団体や、川や海的环境保全や水辺空間の再生・利活用に携わる団体の取材記録をまとめ、流域内の多様な主体によるネットワークづくりを支援する「山村再生担い手づくり事例集」「流域圏担い手づくり事例集」として計8冊発行いたしました。2023年度は、通算9冊目にあたる「流域圏担い手づくり事例集Ⅴ」の発行を行い、事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざして、この交流会を開催しました。本事例集は海に流域の問題が集約されるの思いから、初めて海をテーマとしました。

翌日には答志島に移り、エクスカージョンを実施しました。奈佐の浜海岸のゴミの状況について22世紀奈佐の浜プロジェクト代表の小浦さんから説明していただきました。愛知・川の会の松沢さんからは奈佐の浜の近隣に形成されている湿地帯に生息するトンボと湿地環境の変遷について説明していただきました。その後、海女小屋では新鮮な魚などを食べながら海女さんの貴重なお話を聞きました。



事例集交流会



奈佐の浜海岸

日	時	事例集交流会	R6年7月6日(土)	13:30~16:40
		エクスカージョン	R6年7月7日(日)	10:00~13:00
場	所	事例集交流会	鳥羽市立 海の博物館	
		エクスカージョン	奈佐の浜海岸 奈佐の浜海岸周辺の湿地帯 海女小屋	
参加人数	事例集交流会	41名(事務局を含む)		
	エクスカージョン	27名(事務局を含む)		

◆事例集交流会の活動報告

登壇者の発表概要



■海の問題解決のために流域圏での連携を！

青木伸一さん(大阪大学名誉教授・海部会座長)

海部会座長の青木先生からは以下のようなお話がありました。

1960年代ごろから問題になっている内湾域の水質悪化や水産資源の劣化は、これまで多くの努力にも関わらず、あまり改善が見られていません。それは、直接的な要因以外に都市構造や人の生活様式、農業形態の変化など流域における広域かつ長期的なさまざまな環境の変化がその背景にあります。海は流域の末端に位置し、山から海までのすべての地域の影響を受けて現在の姿があり、海の問題は海に関係する人々だけでは決して解決し得ない問題ばかりです。海の問題は海に環境問題や社会問題に取り組む人材を育てることが流域圏の担い手づくりにつながり、海の問題は多くの要因が複雑に絡み合っていて、問題解決は容易ではないかもしれませんが、山から海まで流域圏の人々すべてが海の問題解決に貢献できます。

■海の恵みと変化について

平賀大蔵さん(海の博物館 館長)

平賀さんが館長を務める海の博物館は、漁師、海女、船乗り、そして海辺に住む人々が海と親しく付き合ってきた歴史と現在、未来を伝える「海と人間」の博物館です。博物館が年4回発行している「海とにんげん&SOS」では、平賀館長等が行っている海の環境を守るための活動や、伊勢湾漁業の変遷・現状を綴っています。近年は漁獲量や海女さんも減少しています。鳥羽市でのアワビの漁獲量は昭和45年で200t以上獲れていたものが20t程度になっています。





■伊勢湾・三河湾と流域の森林

蔵治光一郎さん（東京大学大学院教授・山部会座長）

山部会座長の蔵治先生からは以下のような話がありました。

流木はかつてとても貴重な資源とされていましたが、60年くらい前の燃料革命によって、エネルギーを化石燃料で賄うようになり、価値の高い貴重な資源だった流木が、一転して価値のないゴミ同然のものになってしまいました。60年前以降今に至るまで、山へ柴刈りに行く人もいなくなり、山の樹木の量は増え続けてきました。今後は枯れて倒れる木も増えていき、漁業者のみなさまにとって、大雨のたびに押し寄せる流木は、災害でしかないことは理解できますが、流木を減らせるかどうかは、山だけに責任を押し付けるのではなく、身近なエネルギー源としての流木の価値が再評価されるような未来社会を作っていくための手段について、まず山・川・海が対話し、信頼関係を築くことから始めてはどうでしょうか。

■森と海を繋ぐことー海女の森プロジェクトー

小田和人さん（海女の森プロジェクト 代表）

小田さんが代表を務める海女の森プロジェクトは森林を計画的に伐採し、蒸散量を抑え生息地の再生とCO2の削減を実現し持続可能な社会を目指しています。小田さんからは以下のような話がありました。

伐採が適切に行われれば森に光が入り、下草が茂り、蒸散がコントロールされるため、森から湧き出るミネラル豊富な水が増えていきます。魚つき林から供給される水は昆布やワカメ等、在場の生育を促進し、石灰藻の繁殖による海の砂漠化を予防します。先人たちが自然に行ってきた伐採は森の蒸散を抑え、海に還る栄養部たっぷりの水作りを支えていました。

■伊勢湾の貧酸素水塊の問題について

岡田誠さん（三重県水産研究所）

貧酸素水塊の問題に取り組む岡田さんからは以下のような話がありました。1960～1970年代は貧酸素化が問題となっていました。原因が富栄養化によるものだと考えられていましたが、水温上昇や水質浄化機能が失われたことが原因だと研究により明らかになってきました。また、現在の伊勢湾は栄養塩が少なくなっており、貧栄養化が問題となっています。今までは栄養塩濃度を下げようとしていた中で、逆方向の技術がまだ確立していません。

■22世紀奈佐の浜プロジェクトについて

米田紗歩さん、筒井千遥さん（22世紀奈佐の浜プロジェクト）

22世紀奈佐の浜プロジェクトは鳥羽市答志島での海岸漂着ごみが問題となっており、奈佐の浜のゴミをなくし、豊かな海を取り戻すことを目的に設立されました。その中で「学生会」として活動されていた米田さんとサポーターとして参加していた筒井さんから活動報告がありました。流域内外でも活動をしており、長良川や天竜川での交流や根羽村での林業・ミライ合宿等の活動について報告をしていただきました。これらの活動を通じて山から海まで新たな担い手たちとの繋がりを生み出すことができています。

■鳥羽市で取り組む海ゴミ問題について

中村欣一郎さん（鳥羽市 市長）

鳥羽市では様々な海ごみ問題に取り組んでいます。22世紀奈佐の浜プロジェクト、鳥羽のSDGsまなブック、海のシリコンバレー構想、海のレッドデータブック等の海ごみ・海岸清掃からも鳥羽の魅力を伝えています。その内容についてお話していただきました。

観光客を相手にするときに重視される「きれい」や「おいしい」だけでなく社会課題やそれに取り組んでいる人を知るといふ観光の在り方に鳥羽らしさを活かしています。



◆エクスカージョンの活動報告

奈佐の浜海岸



答志島には、風向や海流の影響で、伊勢湾に漂流するゴミの1/4に当たる年間3,000トンが漂着します。当日もゴミが漂着していましたがそれでもピーク時の1/10程度の量です。また、徐放性肥料プラスチックや人工芝片から流出するマイクロプラスチック（5mm以下のプラスチック片）についても確認しました。マイクロプラスチックは伊勢湾の海苔の養殖にも影響していて、海苔の表面にはマイクロプラスチックが付着し、出荷前に丁寧に除去する手間が発生します。



奈佐の浜海岸周辺の湿地帯



奈佐の浜海岸の近隣にある湿地帯には三重県レッドデータブックにリストアップされているアオヤンマ、ネアカヨシヤンマなどの希少種も生息しています。2010年頃は耕作水田と休耕田湿地が分布していましたが、14年後の現在は耕作水田がなくなり、ヨシが優先する休耕田湿地に変化していました。このまま休耕田湿地の放置が数十年続くと乾燥化が進み、ハンノキ等の木本が侵入し、樹林化が進行することで生物の多様性も失われてしまいます。



海女小屋



海女小屋では海女さんの貴重なお話を伺いました。同じ地区でも漁業権が違うため地域ごとに潜れる日数も違います。少ない地区では年に7日しか潜れないそうです。また、水中での作業中に網などにゴミが絡まると命にもかかわるようなことになりかねないことや、ゴミは漁船のスクリューを破壊するため、漁業の前に漁船の清掃から始めないといけないそうです。昼食にはこの地区でとれたサザエ等を網の上で焼きました。最後には答志島の天草により作られた新鮮なところまでおいしくいただきました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、豊橋河川事務所までお送りください。

